

## 議 事 録

<b>会 議 名</b>	令和2年度 第2回 教育課程編成委員会
<b>日 時</b>	令和3年2月19日(金) 15:00～17:00
<b>場 所</b>	中央工学校OSAKA 1号館 31・32教室
<b>参 加 者</b>	[委 員] (敬称略) 小松原 学、金沢 ちかこ、小坂田 昌広、岩尾 美穂、 中嶋 潤、田尻 元子、田中 由之(欠席) [関係職員] 中村 聖吾、平上 秀明、原 充介、戸澤 まり子、 中島 征治(司会)、西村 宜晃、岡野 和生(記録)、成田 雄大、 吉田 知恵、唐木 恵美
<b>内 容</b>	<b>1. 令和2年度 第2回 教育課程編成委員会</b> 司会の中島 征治職員が開会の宣言を行い、教育課程編成委員会 が開会した。  (ア) 学校長挨拶 中村 聖吾校長から本校における現状について報告があった。  ・新型コロナ、1/13に政府より緊急事態宣言が発令、2/2には期 間の延長が決定した。2/17より医療関係者を対象にワクチンの接 種が始まった。  ・新型コロナ感染再拡大に伴う対応について、登下校時の感染リ スクを下げるため12/1より時程を変更し、朝は20分遅く授業を 開始し、夕方は20分早く授業終了とした。  ・11/9～14の期間に教育懇談会を実施。今年度は11組の保護者 が参加された。  ・軽井沢合宿研修代替研修を学校内で実施した。1年生を対象に 12/17～20に住宅デザイン科・インテリアデザイン科、12/20～23 に建築学科のスケジュールで実施。 従来は4月に実施していたが、12月に変更になったので、来年

度の進路選択などを見据えた内容とした。

- ・1/26～29 に後期末試験、2/8～12 に後期追試験を実施した。

- ・2/16～17 に令和2年度卒業成果・制作発表会を開催した。  
2/16 は研究科、2/17 は昼間部4学科（17名）がそれぞれ作品の発表を行った。今年度は Zoom ウェビナーにて発表会の様子をライブ配信した。

- ・12/3 に二級建築士製図試験の合格発表があった。研究科の学生は8名受験し7名が合格（合格率87.5%）した。学科試験を含めた最終的な結果は、15名中7名が合格（合格率46.7%）した。全国の合格率26.4%を上回る結果となった。

- ・今年度末をもって、建築CGデザイン科及び建築学科夜間部を廃科し、研究科、建築学科、住宅デザイン科、インテリアデザイン科の4学科で運営していく。

- ・今年度から国際系が新たに始動し、順調に進んでいる。来年度には新1年生が入学し、完成年度となる。

#### （イ）配布資料の確認

中島 征治職員から、本日の配布物の確認を行った。

（1）戸澤 まり子学科長より、令和2年度の建築系教育について報告があった。

- ・今年度の生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス）は、コロナ禍の影響によりオンライン開催となったため、学生は建築見学に行くことが出来なくなった。また、毎年実施していたスポーツ大会も中止となったため、代替研修として六甲ミーツアートに参加した。

これに合わせて、事前勉強会や前期の作品発表会も実施した。

- ・夜間部建築学科のスポーツ大会はボーリング大会を実施した。

・軽井沢合宿研修代替研修では、図面伝言ゲームや危険予知活動、マナー研修、就職ガイダンス、学校コンバージョンコンペなどを実施した。

・インテリアデザイン科では、ショールーム見学（カッシーナ）を実施した。

・2/16～17に卒業成果・制作発表会を実施。2/16は研究科の卒業成果発表会（4名）、後半には、学生有志による作品発表会（7名）を実施した。

2/17は各学科内で25%に選ばれた学生（全17名）による作品発表を実施した。また、在校生や保護者、関連企業の方に向けてZoomウェビナーによってライブ配信をした。初めてのウェビナー配信ではあったが、様々な方の協力があり、滞りなく終えることができた。

・今年度の研究科は15名でスタートしたが、新型コロナの影響で、学生は登校することが出来なかった。対応として、4～5月はオンライン教材を活用した自宅学習とした。今年度は学科試験を8名が合格し、製図試験は7名が合格した。

・その他の学科の資格試験についても、授業内外で指導する機会を設け、多くの資格にチャレンジし、合格している。

・中村 聖吾校長から説明のあった時程変更の詳細は、配布資料【令和2年度建築系の教育について】の最後のページに記載している。

（ウ）令和2年度卒業成果・制作発表会発表作品の見学を実施  
平上 秀明教務部長より建築学科の作品説明、吉田 知恵職員より住宅デザイン科の作品説明、戸澤 まり子学科長よりインテリアデザイン科の作品説明、西村 宜晃職員より建築CGデザイン科の作品説明を行った。

（エ）意見交換

本日の委員会での意見交換を行った。

(1) 各科の卒業制作作品を見学して

① 金沢 ちかこ委員

着眼点が社会実情を見据えており、頼もしいと思った。  
このまま、どんどん成長し続けてほしい。  
各学科の内容が明確に伝わってくる作品が多く、素晴らしかった。

② 小坂田 昌広委員

コロナ対策を徹底していること、本当に苦勞されていると思う。  
作品に関しては、リモートでも拝見させていただいた。ゴールドアワードの作品は着眼点が素晴らしいと感じた。評価者は、どの点が良かったのか、具体的に学生へ伝えてあげると、今後のモチベーション向上に繋がると思う。

中島 征治職員：施工図について意見を伺いたい。  
→地味な分野ではあるが、確かな知識がないと描けないので、しっかりと描けているのは素晴らしい。

戸澤 まり子学科長：今回は審査員の評価について、各学生へフィードバックを後ほど知らせる予定である。

③ 岩尾 美穂委員

本当に大変な1年だったと思う。職員の皆さんのご尽力によって成り立っているのではないかな。  
学生は社会情勢や、時代をしっかりと見据え、問題発見や、その解決を真剣に考えていると思うし、プレゼンテーション能力は非常に高いと感じた。

④ 中嶋 潤委員

建築学科建築設計コースの作品について、C評価の作品が気になった。  
B評価の作品は、図面は描けているが、作品としては疑問符が残る。設計は底なし沼なので、到達点をどこに設定するかが肝心である。コースをまたいで設計から設備・施工の連携ができるの良いのではないかな。

平上 秀明教務部長: コースを跨いだ作品作りは禁じていないが、現実はそのままでやりたいという学生がいない状況。また、時間の都合で実現するのが厳しい。

⑤ 田尻 元子委員

今年も受賞者に建築学科がいないのは寂しい。また、プレゼンボードに稚拙な文章が目立つ。そこは指導者が監修し、指導してあげてほしい。

建築学科建築設計コースの図面の中身がボヤっとしていて少し残念。

建築設備コースについては、建物概要が見当たらなかったのも、省エネやコストについてわかりにくかった。建築設備の分野はこれから重要な役割を担うので、もっと頑張ってもらいたい。

⑥ 小松原 学委員

学校として今後は、コロナ感染者は「出るのものだ」という前提で進めていかななくてはならないのかもしれない。

作品については関連性を持たせるのが大事だと思う。これがわかっていない学生が多いので、ここをもっと指導してあげるべきである。

専門学校は職業教育であり、その中の関連性をしっかりと教育してあげるのが、今後求められることだと思う。

## 2. 閉会の辞

中村 聖吾校長が閉会の宣言を行い、教育課程編成委員会が閉会した。

### 【配付資料一覧】

- ・令和2年度 第2回教育課程編成委員会 次第
- ・令和2年度建築系の教育について

以上